

水中写真家

# 中村 征夫

なかむら・いくお 昭和20年秋田県生まれ。高校卒業後、上京。会社勤務を経て20歳で潜水と写真を始め、水中撮影プロダクションに入社。52年フリーカメラマンとして独立。主な受賞は木村伊兵衛写真賞、日本写真協会年度賞、土門拳賞など。現在は撮影プロダクション「スクール」代表として世界中の海に潜り撮影活動を展開。著書に『全・東京湾』『海中顔面博覧会』他多数がある。

## 人の心に 木を植える

中村 以前から畠山さんと対談をとお話は何度もいただいていたのですが、なかなか実現しませんでした。ようやくお会いできてとても嬉しく思います。

畠山 私も中村さんの水中写真はよく拝見していて、いつかお会いしたいと思っていました。きょうはよろしくお願ひします。

中村 いまは地球環境がひどいことになっているので、牡蠣の養殖をやっておられる畠山さんが「森は海の恋人」運動を立ち上げられ、上流の山に木を

## ●対談 畠山重篤&中村征夫

# 海が語りかけるもの

植えることで海を甦<sup>よみがえ</sup>らせたというお話には、とても感動を覚えます。悲観的な話ばかりしているとどうにもならなくなりますが、いまはそういう明るい話題が必要です。「何をやってもダメじゃないか」と思われるのが一番困るんですよ。

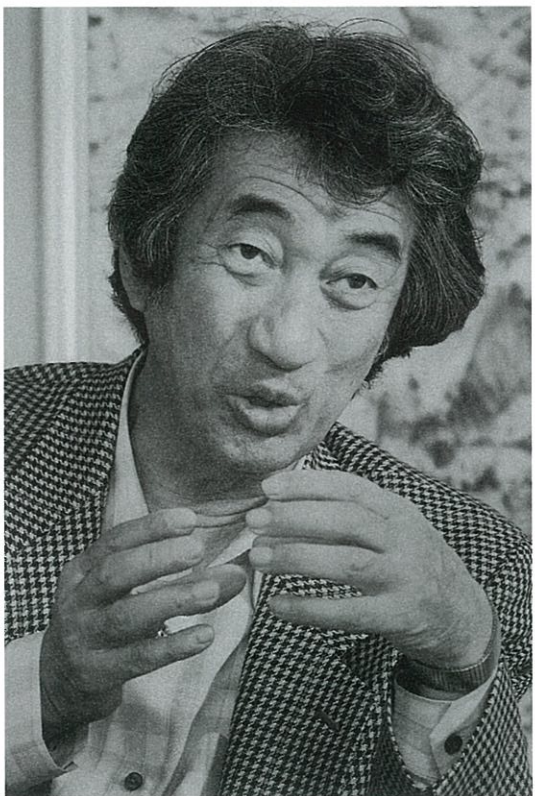
畠山 中村さんが世界中の海に潜って撮ってこられる写真も、とても貴重なメッセージを与えてくれます。いろんな所に撮影に行かれて、随分お忙しくされているのですね。

中村 本業はカメラマンなんですけど、地球環境への関心が高まっているためか、ここ二、三年はこれまでの体験をしゃべってくれとよく講演を頼まれるんです。僕の場合はあれこれしゃべるよりも、撮ってきた写真をポーンと見せるだけでたくさんのお話を聞かれます。だから国内外の写真家をたくさん見てもいいながらお話しさせていただきます。本業がおろそかになると困りますが(笑)、子どもさんから大人まで、皆さん熱心に環境の話に耳を傾けてくれるので、できるだけやらなくちゃいけないなと思っています。

畠山 写真の印象は強烈ですから、皆さんの反応もいいでしょうね。

中村 そうですね。テレビで紹介さ

「森は海の恋人」運動を推進し、豊かな海を取り戻すために植林活動を推進する畠山重篤氏。世界中の海に潜り、知られざる生命の真実をカメラに収め、紹介し続ける中村征夫氏。地球環境問題が深刻化するいま、海は何を我々に語りかけているのか。両氏の活動を通じて、これからの生き方を考える。



牡蠣の森を募る会代表

# 畠山重篤

はたけやま・しげあつ 昭和18年中国生まれ。37年宮城県立気仙沼水産高校を卒業、家業の牡蠣養殖業を継ぐ。平成元年「牡蠣の森を募る会」を結成し、漁民による広葉樹の植林活動「森は海の恋人」運動を推進。6年朝日森林文化賞受賞。11年「みどりの日」自然環境功労者国務大臣環境庁長官表彰。著書に『森は海の恋人』『リアスの海辺から』『日本汽水紀行』などがある。

れた時も反響が大きかったようで、一番をやることになりました。そのため各地にロケに行つたのですが、沖縄の海なんか、いまとんでもないことになっています。珊瑚にがんとか伝染病とかいろんなものが蔓延しているんです。いままでなかったことです。

中村 もう家庭から何が流されているか分かったものじゃないということですね。本土復帰してからというもの、自然環境はガタガタになりました。昭和五十年に人類と海との調和をスローガンに海洋博覧会が行われましたけど、あれで沖縄の森も海洋資源もズタズタになって、その影響が三十年以上たっ

てもまだ残っています。とても復活できないような状態です。

畠山 確かに、どこへ行っても昔よりよくなったという所はほとんどないですね。しかし幸い私たちの気仙沼湾は、牡蠣の養殖にすごく希望が持てるようになりました。いま、息子が私の後を継いでやっていますが、孫も生